



「十五の夏」

先輩の大きな背中を
必死に追いかけて
トレーニングに励んだ十三の夏
終わっていく
一番お世話になった先輩と
一緒に泣き笑いした十四の夏
何度も何度も訪れる
その同じ夏なのに
今年の夏はきつと
忘れられない夏
取り合う一点一点に一喜一憂
必死に追いかけたボール
見上げれば夏を感じさせる太陽
頬を伝う汗と涙
追いかけてきたのは
自分の目標と

ゆめ

みんなと一緒に見た希望
何度もくじけそうになった
何度も諦めそうになった
そのたびに思い出したのは
入部してきた時の夢
一生懸命にボールを
追いかけたあの日
はじめて着たユニフォームの感動
そんな思いがまるく
光のように駆け巡る
そんな十五の夏
そんな忘れられない十五の夏

